

清水の

豪援隊かわら版



清水ヒデキ

豪援隊隊長・

弁護士・移民コンサルタント
(MARN: 9900985)

「オーストラリアから日本を援けよう」と豪援隊発足。16歳に単身オーストラリアに留学。その後ボンド大学卒業後、QLD州弁護士資格取得。長年に渡り、日本人ならびに日系企業、世界各国のクライアントのコンサルタント業務に従事。

<今月の偉人伝> 長嶋茂雄

長嶋茂雄の打撃理論その1

「アップパー、ダウン、関係ない。打つべき時に打つべき球を打つだけ」

長嶋茂雄の打撃理論その2

「ガーッときたらバーツとってダーツって打てばいいんですよ」

長嶋茂雄の打撃理論その3

「球がこうスッと来るだろう」「そこをグウッと構えて腰をガツとする」「あとはバァツとってガンと打つんだ」

<今月の視点>

「思い違い」その1

正に現ギラード政権のキャッチフレーズにしなければならない言葉がこの「思い違い」です。ある意味、最初からギラード首相は「思い違い」で首相になったようなものでした。労働党の影の支配者たちに踊らされた真夜中のクーデターを起こしたまではないが、特にこれといったポリシーがあるわけでもなく、何となくやっているという感じが否めないのが現ギラード政権。自力で政権を取ったわけではなく、最終的には「緑の党」や無所属派議員2人を介して過半数を取るに至ったにもかかわらず、そうした他力依存政権を忘れてしまったような政策は、正に「思い違い」でした。

「思い違い」その2

現政権のもう一つの大きな思い違いといえば、「資源税」ではないでしょうか。これは、ここ数年多額の利益を出している資源採掘会社に対して、特別税として課した税金であったわけですが20億ドルの税収が予算で組まれていましたが、実際は126万ドルだけとその金額の差が問題視されています。これが、労働党政権の瓦解の決定打といわれているほどです。この税金に関しては、財務省の幹部が資源業界の代表と幾度と交渉を重ねて決めたものでしたが、最終的には業界に骨抜きにされたものとなりました。それに気づかなかったこと自体が問題ですが、それ以上にこの時期にこうした問題を指摘されてしまうことが選挙を控えている政権にとって、マイナス材料になることに間違いありません。

「思い違い」その3

ゴールドコーストでは、現在至るところで路面電車の工事が進められています。世界的な観光地であるゴールドコーストで、そうした交通機関は必要だと言われてきました。地元の方、数人に「もし路面電車が開通したら利用しますか」という話をした際に、利用するという人はほとんどいませんでした。観光客のためという声はもちろんありますが、景気に左右されやすい観光業界に依存しなければならない路面電車。これも「思い違い」にならないことにならないかいいですが。。。

<今月の注目記事 その1>

ギラード首相、総選挙を9月14日に行うと発表。
2013年1月30日付 シドニーモーニングヘラルド紙
(<http://goo.gl/nTkb9>)

「あー、やっちゃったあ！」というのが、このニュースではなかったでしょうか。ギラード首相がまだ1月の時点で今年行われる総選挙の日にちを9月14日とすると発表してしまいました。これには、敵味方を含め、オーストラリア国民自体も呆気に取られてしまったという感があります。

一応、現在のキープレイヤーである2人の無所属議員に対しては事前の了承を得ての、今回の発表ということであったそうですが、ギラード首相の母体である労働党内ではかなりの動揺があったようです。その後、2人の大臣がなぞの辞任、その後も数人の労働党のベテラン議員が意味不明な引退、辞任等の話をしています。

ギラード首相としては、選挙日をいつにするかという点について無駄な議論を避けるためと、早々として選挙日決定の理由を説明していますが、これにより実質7ヶ月以上にわたる選挙戦を開始しなければならない議員や党員は大変です。選挙戦に参加した経験がある人には、その大変さは良くわかります。それが、数ヶ月でなく、7ヶ月以上に渡って続くとなると、気力も体力、そして財力もなければ戦えるものではありません。

それに、もっと重要なこととして支持率の動向を見ながら選挙日を決めるという切り札を自ら放棄してしまった労働党政権は、今後は選挙日に向けて支持率獲得に頑張るしかありません。これから年末にかけて、支持率を上昇させることができるような材料もないなかで、ギラード首相が行った、この奇妙な行動に対する結果は9月14日に判明します。

ますます、オーストラリアの政界から目が離せません。

<今月の注目記事 その2>

洪水の影響で、ゴルフ場にサメ出現
2013年1月31日 Courier Mail より

洪水の影響の為、クイーンズランド州にあるリバーレイクゴルフコースで、サメが目撃されました。

詳しくは以下をご覧ください。

<http://www.couriermail.com.au/questnews/logan/more-sharks-sighted-near-carbook-golf-club-after-logan-river-floods/story-fn8m0u8i-1226565301445>

<今月の視点 その2>

「自然災害」

自然災害の恐ろしさを改めて感じさせられた1月でした。筆者の知り合いも何人かは、大雨や洪水の被害に遭いましたが、ようやく2年前のブリスベン大洪水からようやく復旧したと思われた矢先の出来事で、再度被害に遭われた方たちには精神的なダメージのほうが大きかったと思います。やはり、自然の前では人間は微力です。

<今月のジョーク その1> 夫婦の会話

さっきスーパーである夫婦が話してた。

女「今夜はモモー口にしよう。」

男「モモー口？ おっ、いいね。」

モモー口という不思議な物を確かめるべく、俺もその食品売り場に行ってみたんだが。。

モモー口なんてものは無く、「モモー口(ひとくち)」という鶏肉が置いてあった。(ジョーク集より)

<今月のジョーク その2> 継続は力なり

水に向かって「美味しくなってね」って話しかけ続けると本当に美味しくなるという話を聞いて以来、鏡に向かって「可愛くなってね マジで！お願いだから可愛くなってね！」って話しかけ続けてきた効果のおかげで最近鏡がめっちゃ可愛くなってきた。(ジョーク集より)

<今月のジョーク その3> 男と女

「男の人に何か言っても片方の耳から入って、もう片方の耳に抜けてしまう」と、女が言った。

「冗談じゃない」

「女に何か言うとか・・・」男がすかさず切り返した。

「両方の耳から入って口に抜ける」

(大人のジョーク集より)

<今月の偉人伝おまけ>

[打撃不振の当時の掛布選手に電話でバッティング指導しました]

長嶋「もしもし掛布君、ちょっとバットを振ってみなさい」

掛布「は、はあ・・・」→

長嶋「どうだい？どんな音がしてる？」→

掛布「え？いや、ブンと・・・」→

長嶋「ブンじゃまだダメだな。ブア～ンじゃないと」→

掛布「ブーンですか・・・」→

長嶋「いやブア～ン」→

掛布「バーン」→

長嶋「ブア～ン」→

掛布「ブア～ン」→

長嶋「おっ！いいぞ。さあもう一度言ってごらん」→

掛布「ブア～ン」→

長嶋「よし、これでもう大丈夫だ。それじゃあまた。」

電話口でも相手のスイングの様子が分かるのは、さすがは、われらの長嶋茂雄。

<今月の発見>

ディズニーランドのキャラクターに手紙を書くとお返事としてハガキが送られてくる。

送り先: 〒279-8511 千葉県浦安市舞浜 1-1

東京ディズニーランド内 (キャラクター名)様

(雑学集より)

<今月の名言>

人生は確かに耐えがたい苦難がある。

しかしそれだけになおのこと、感謝のたねを数えて生きぬく者でありたいと思うのである。

三浦綾子 著「私の赤い手帖から」より

感謝の種を数えることは、生きていく上において、不可欠のこと。

感謝を失わない限り、あらゆる苦難を耐えぬくことができ、生きぬくことができる。

三浦光世 著「愛つむいで - 生」より



このかわら版、またはビザに関する質問、お問い合わせは、こちらまでお気軽に！

ALC ビザコンサルタント

QLD 州以外の方にも、ご利用しやすくなりました！

ゴールドコースト事務所 住所: Suite7, 155 Varsity Parade Varsity Lakes QLD 4227
シドニー事務所 住所: 24 Lewis Way Newington NSW 2127

電話: 1300 365 811, +61-7-5630-6505, Fax: +61-7-3319-6131 (担当: 関)

E mail : info@alcvisa.com Website : www.alcvisa.com

東京事務所 (担当: 生田・松本)

〒170-0013
東京都豊島区東池袋
4-25-12 池袋今泉ビル 6F

電話: +81-3-3985-6003

Fax: +81-3-3985-6009